

1 大北森林組合の事業経営計画等の取組状況について

- ・必死さが見えず、スピード感もない。林務部の組合に対する改善指導を含め、対応が遅く、今の状況では 9 億円の回収は不可能と思われる。組合にノウハウがないというならそれも含めて何が原因・問題なのかを追及する必要がある。
- ・人材等に関する支援として、今頃、県森連と連携し人的支援に向けた調整を行っているということでは遅い。何年経っているのか考えるべきである。また、組合としての魅力的な組織づくりや人材を探す努力はしているのか。財源的な問題もあると思うが、OB や全国の林業職経験者の活用、職員に対するインセンティブの付与など、様々な方法を考えるべきである。
- ・林務部としてどうしていくつもりなのか。なぜ、県として主導できないのか整理が必要。また、組合としての未来のビジョンが見えない。組合としてこうする、こうあるべきだというビジョンを示すべき。
- ・今回の資料では納得、共感できるものがない。今後の計画については、具体的な方向性や数値的目標も含めて明示することが必要である。
- ・事業実施状況についての K P I 計画を作るなど、実施状況を 1 か月単位で確認するようなスピード感が必要である。また、抜本的な見直しを 1 か月以内にやるべきであり、県として対策チームを立ち上げるなどし、その検討結果を基に年内に委員会を開催することを提案したい。
- ・県の指導・支援策として、広葉樹の活用のための資源調査等があるが、どの時点で販売するのか、どのくらいの量を想定しているのかわからないので、計画する時期及び量について明示すべきである。
- ・補助金の活用等いろいろな手がある。仮に規制緩和というなら、特区申請するなどの努力をすべきである。
- ・組合役員、職員に対して檄を飛ばす必要がある。また、頑張った職員についてはある程度の見返りも必要である。
- ・林大の学生のアイデアを活用したビジネスモデルの確立や観光部との連携した農林+観光といったコラボの検討など、この地域をどう売っていくのか考える必要がある。

2 小橋興業に対する請求について

- ・組合として、小橋興業に対しても損害賠償請求できるのではないかと考え方について確認してほしい。

3 林務部コンプライアンス推進行動計画について

- ・ 広報について現計画は誰のために行うのか、やみくもにやっているようにしかみえない。誰を対象に、何の情報を出そうとしているのかを明確に戦略として立てる必要がある。SNSの活用というのは自己満足の世界になりやすい。フェイスブックは見ない。美しい写真をInstagramにアップした方が見るのではないか。
- ・ 社内コミュニケーションツールとしての広報の活用という視点も大事である。林務部のビジョンは林務部職員に浸透しているのか。
- ・ ホスピタリティ研修よりファシリティー研修を行うべきである。林務部職員は地域をまとめていく力が必要だが、現状では弱い。
- ・ 若い職員の意見を聞き、若い職員の発想を活用するため、各セクションから30代の職員を15名程度、バイネームで選出し、広報についてのアイデア出し等をさせるべきであり、若い職員の遊び心も大切にしながら様々な検討を行う必要がある。
- ・ 部課室長と若手職員の意見交換を月に1回行うなど、若手職員と対話する機会を定例化すべきである。
- ・ 岡山県の災害等で森林・林業の重要性が再確認されている中、災害を契機とした森林・林業の取組を推進する、今がチャンスであると考えます。
- ・ 災害情報や危険箇所などのヒヤリ・ハット情報は、行政より近隣住民が把握しているので、地域住民の情報の活用もすべきである。